カワイコンサート NO.2183 野原みどり ピアノリサイタル

2012年10月12日(金) 19：00開演
会場：京都コンサートホール 小ホール(アンサンブルホールムラタ)（京都府）
全席自由：　一般 一般券3,000円
会員券2,700円

ピアニスト

野原みどりさんからのお便り

縁あって 3 年前より京都市立芸術大学で教鞭を執らせていただいています。
生まれも育ちも東京で、日本国内では根が生えたように一処から全く動かずに
生きて来ましたが、人生も半ばになった今ひょんなきっかけから拠点が広がり、
新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。

2009 年第 14 回京都の秋音楽祭開会記念コンサートにて

東京芸術大学在学中、同級生の中には関西から来た人も沢山いて、（ヴァイオリンの葉加瀬太郎さんや大フィル首席チェロ奏者の近藤浩志さんが同級でした）彼らの話す言葉は耳に馴染んでいましたし、更に記憶を辿れば幼少の頃、普通その年頃の女の子だとどちらかと云えばバレリーナの方が多そうですが憧れたのは日本舞踊、着物が大好きで、楽器も琴を習いたくて、紙箱に輪ゴムを掛けて弾［はじ］いて遊んでいたのを記憶しています。
留学でしばらく日本を離れていたせいか、帰国してから更に日本ならではの繊細で精緻な伝統美、風流を愛する習慣に愛着が増しました。今思えば初めての大学勤務、決断するまでにもっと逡巡しそうなものでしたがほとんど即断に近かったのは、ある意味必然だったのかもしれません。
とは云え、東京と京都の慌ただしい二重生活、今のところはまだ借りている部屋と大学、それに経由する駅を行き来するだけで京都を満喫するには至っていないのですが。

2009 年
第 14 回京都の秋音楽祭開会記念コンサートにて

と云いつつ、ちらちらと寄り道したお店で迷った挙げ句銀細工の簪を手に入れてしまったり、ついつい着物や帯をお買い上げしてしまったりの今日この頃です…。
更には買うだけに留まらず箸置きで帯留を作ったり、石とワイヤーでアクセサリーを作ったり。
この夏はムーンストーンに嵌って着物でも合いそうな物を幾つか作ってみました。
今、アートクレイシルバーなぞにも手を出したくなりそうなのを我慢の日々です。
その前に、東京の家の、昔作ったキッチンカウンターの天板を作り直すために解体してしまったのを早く何とかしなければなりません。

大学では現在、週に２日レッスンの日を設けています。その他に、試験期間には他科の試験の伴奏をするピアノ科の採点をするために色々な楽器の演奏を聴かせていただく機会もあり、学生さん達の熱意溢れる演奏を聴いているとやっぱり本当に音楽っていいなあと思います。
殊にここ数年私の中ではリート（歌曲）がちょっとしたブームなので、初めて聴いた曲にお気に入りを見付けたり、表現することの素晴らしさに感動したり、聴いていて幸せな気持ちになります。

気軽に入れるお茶漬けのお店、
見付けました。

さて今回、今年はドビュッシーの作品をとのことで、フランス留学時代に勉強した懐かしい曲達を久し振りに引っ張りだして来てみました。中でも映像第Ｉ集は、当時師事していたジェルメーヌ・ムニエ先生のレッスンでどうしても弾けない部分が１箇所あり、挫折して途中でドロップアウトしてしまったという曰く付きの曲です。今から考えれば「コロンブスの卵」的発想転換というか、要するに未熟だった昔の私…というところなのですが、今回はそのリベンジです。
その「映像」の第１曲目には「水に映る影」と題が付いていますが、最後に弾く「喜びの島」はワトーの「シテール島への巡礼（船出）」から影響を受けたやはり水の描写が全編を彩る作品、そして水繋がりで、同じフランスの作曲家でドビュッシーと双璧を成すラヴェルの作品から「水の戯れ」を。同じ題材が作曲家によってどのように雰囲気が変わるのか表現できればと思います。そしてラヴェルの師、フォーレのノクターンから、フランスの偉大な女流ピアニスト、マルグリット・ロン（彼女はムニエ先生の師でもありました）が「フォーレの最も美しいインスピレーション」と賞賛した第６番を選びました。フォーレのノクターンは彼の生涯に渡って作曲された１３曲からなる曲集ですが、将来全曲演奏することを目標に少しずつ勉強しているところです。
他に偶然同じ調性になったショパンを２曲、それから以前 NHK の番組「ぴあのピア」で演奏して、ただ番組の時間上全曲は放映されず「全部聴きたい」とのお声をいただいていたリストの「スペイン狂詩曲」を取り上げました。昨年末にリストの年としてオールリストプログラムのリサイタルを同じくこのホールで弾きましたので、曲は違いますが２年続けてのリスト作品の演奏となります。

また、今回は取り上げられませんでしたが現在ピアノソナタを中心としたオールシューベルトリサイタルシリーズを始めており、いつかこの地でも皆様にお聴きいただけたらと思っています。
その他に、日本で学生時代に小品を１曲だけ勉強して、苦労して、当時は合わないと判断されてそれきり最近まで手付かずだったブラームス。やっと向き合える年齢になって来たので、じっくり勉強して行く予定です。
そして、私は常々最後に辿り着くのはバッハだと思っているのですが、この先老いて人間として熟成を重ね、かのチェリスト、パブロ・カザルスのように、バッハの作品が呼吸するように傍らにある日々を迎えることができるよう、今から心して歩んで行けたらと希っています。サクソフォニストの主人との共同 HP です。
Nohara Duo Official Website
http://www.nohara-d.com/